参考資料 I 九段坂公園等の現状と基本方針について

1 九段坂公園の概要

九段坂公園は、靖国通りの千鳥ケ淵側に面した道路沿いの公園で面積は 1,548 ㎡、長さは約100mです。公園の施設には田安門側から常燈明台、品川像、大山像、大山元帥顕彰碑、トイレ等があります。

また、公園西側の消防署跡地は、500 mの平地となっており、ちよくるサイクルポートがあります。南側に千鳥ケ淵や東京タワーの眺望が開けています。

□公園概要(財務省用地、千代田区管理)

開園月日 昭和40年7月1日

面 積 1548.06 ㎡

主要施設 広場 約637㎡ (通路含む)

緑地 約704 m

便所 1 箇所(37.36 ㎡)

記念碑等4基

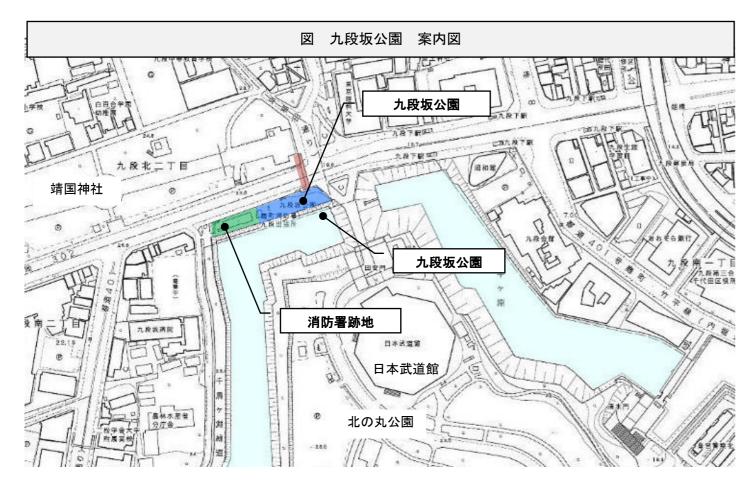
(公園の大きな面積を占めている)

公園灯 8基

□消防署跡地(千代田区)

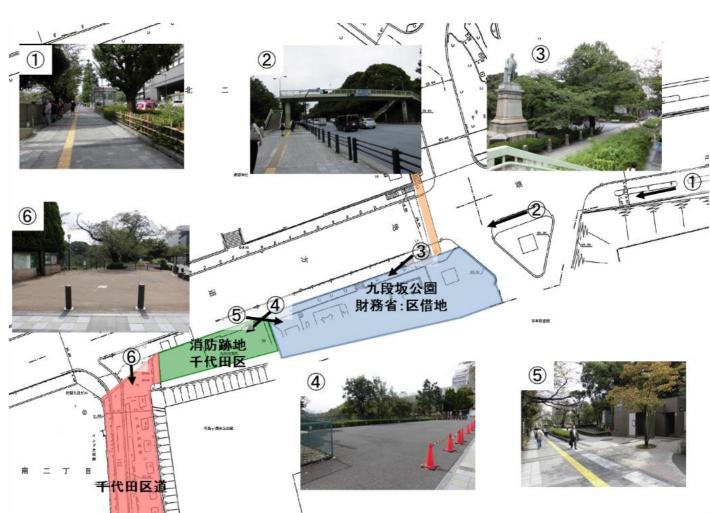
面 積 約500㎡

主要施設 レンタルサイクル ちよくるサイクルポート





田安門前歩道橋から見た九段坂公園



2 九段坂公園の現状と課題

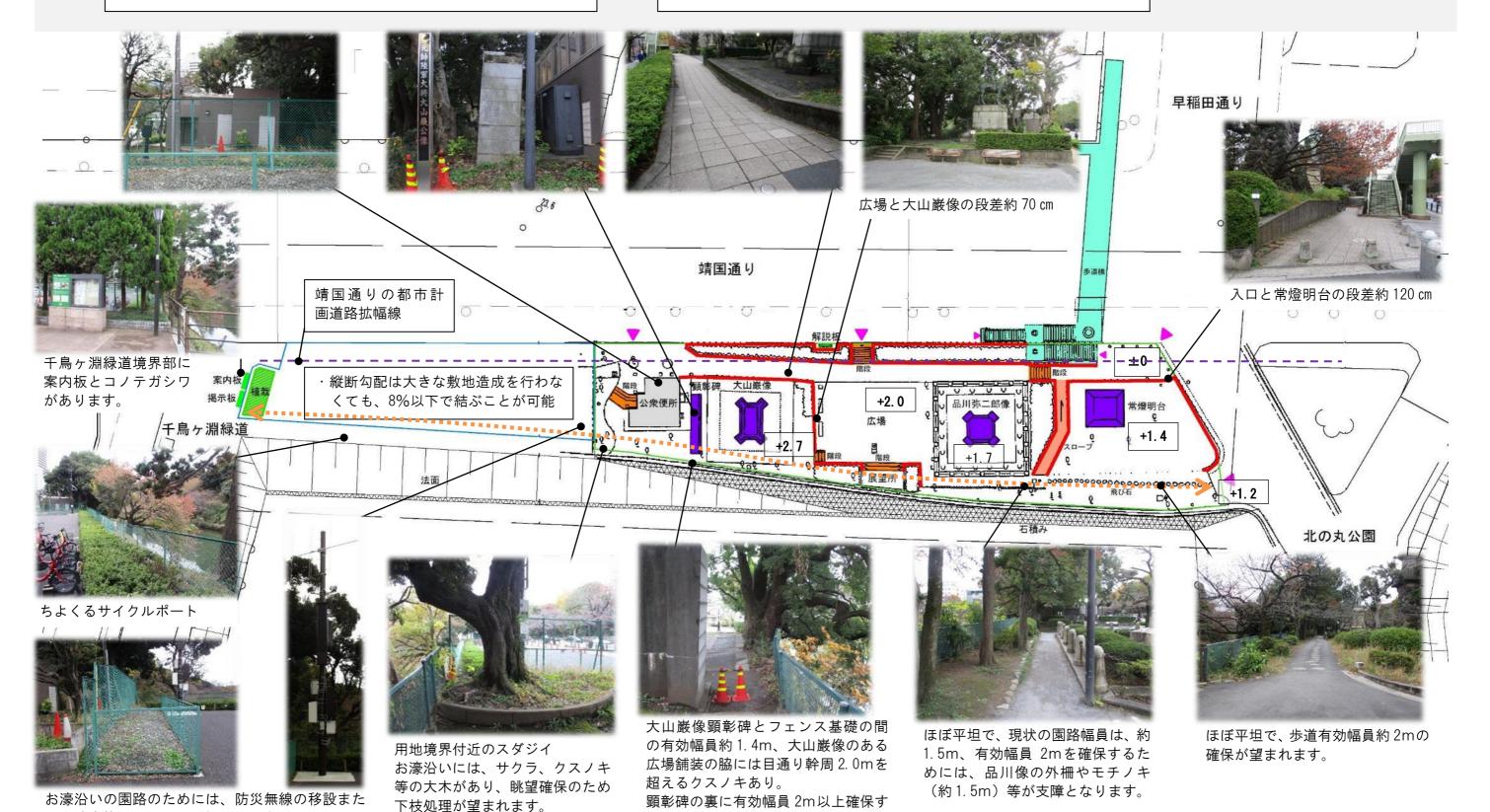
は環境省管理地の活用が望まれます。

課題1

- ・公衆便所・大山像の前の九段坂公園園路は、波打っており、銅像にはお濠側や消防署跡地側に傾きがあります。
- 九段坂公園側は、高低差がありますが消防署側は平坦です。

課題2

- ・常燈明台、品川像、大山像は、切土又は古い盛土の上にあると考えられ、地質調査等が望まれます。
- 公衆便所周辺は新たな盛土との境界付近に位置する可能性あり。



るためには顕彰碑が支障となります。

3 九段坂公園に関するこれまでの議論と基本的な考え方

□これまでの委員会における九段坂公園に関する意見

- 銅像の裏側が狭いです。
- 歩道橋については、撤去も視野に入れて検討し方がよいです。
- ソフト・レガシーについて配慮した方がよいです。
- 銅像に対して説明がないです。
- 静かに落ち着いて散策や学習ができる空間として楽しみたいと思います。
- 外国人が来るのは景観が良いことと、入場料等がかからないことです。
- 多言語案内があると良いと思います。
- 歴史的な遺産も多く、素晴らしい環境です。
- 東京 2020 大会*の開催時の暑さ対策及び快適に過ごせる工夫が必要と思われます。
- 利用促進には、トイレ、休憩、飲食、多言語案内があると良いと思います。

口昨年度まとめた管理者会議の意見

- バリアとなる段差の解消が望まれます。
- 多言語対応のサイン表示が望まれます。
- 歩行者の滞留を分散・抑制する仕掛けの導入が望まれます。
- 見晴らし台が設置(千鳥ケ淵を一望できる展望空間の創出)望まれます。
- 公園から緑道への連続性の確保が望まれます。
- サイクルポートの再設置が望まれます。
- 公園施設の再配置が望まれます。
- 舗装デザイン・ベンチの再配置(銅像の裏側が狭い)が望まれます。

■歴史的資源



常燈明台



品川弥二郎像



大山巌像

■景観 (眺望) 環境保全



九段坂公園(消防署跡地)からの 千鳥ケ淵と桜の眺望

口九段坂公園の整備の考え方

■整備の位置づけ

- 〇 消防署跡地は、現在景観スポット、サイクルポートの設置場の役割を果たし、また、Wifi や防災無線の発信場にもなっている。緑道と九段坂公園を結び拠点になり得る位置にあります。
- 九段坂公園は開園以来、大きな改修はなく施設の老朽化も目立ち一部敷地の変形 もある。公園としてバリアを多く残した状態にあります。

■整備のコンセプト

「飯田橋方面、九段下、市ヶ谷方面から来た人々が初めに立ち寄るなど拠点となる場所、そこから、田安門へ、千鳥ケ淵の緑道へ、北の丸公園へそれぞれのスポットに広がっていく人の回遊性を促します」

- →九段坂公園、消防署跡地を一体整備し、千鳥ケ淵緑道の連続性を産み出します。 一方「千鳥ケ淵への絶好の眺望ポイント」という立地を活かした「ゆとりのある 空間と北の丸公園周辺のスポット基地」として整備をします。
- この空間に求められる機能は、以下のとおりです。
- ① 史跡の解説、インフォメーションなどの文化や観光の情報発信
- ② 千鳥ケ淵などへの眺望機能・快適な休憩機能
- ③ 地区の中心としての広場機能、魅力アップ

■九段坂公園の整備方針

- お濠の景観が楽しめる水辺の歩行者ネットワークを形成します。
- ② 千鳥ケ淵緑道との結節点となり、休憩ポイントの確保や千鳥ケ淵の眺望点を確保します。
- ③ 日本武道館前の田安門交差点から千鳥ケ淵緑道に連続したバリアフリールート 確保します。
- ④ 靖国通り沿いの小公園として、人の溜まる空間、さくらまつりやイベント空間としての利用を図ります。また、防災時の情報発信機能を検討します。
- ⑤ 隣接する靖国通りからの導入をスムーズにします。
- ⑥ 公園として開園する以前から存在する歴史的な構造物(現在、大山巌像、品川弥 二郎像、常榜明台の3台)は、公園内に残置させる方向で検討します。

■段階的な整備の考え方

- ① 東京 2020 大会※までの整備
 - ・計画地の円滑な歩行機能の確保、水辺の眺望確保、イベント・交流機能の広場確保を先行的に行います。トイレについては、必要に応じて設置方法等を検討します。
- ② 東京 2020 大会※以降の整備
 - ・北の丸公園北側の交流拠点や情報発信拠点、靖国通り沿いの眺望・憩いの空間等の多機能な施設の必要性について検討します。



4 九段坂公園の整備について

■基本ゾーニング

- ○公園のゾーン分け:計画地は、東側の「高燈篭や銅像のある史跡保全エリア」と西側の「拡張エリア(消防署跡地」の2つのゾーンに大別されますが、全体として一つの公園として一体的空間となるように整備します。
- ○濠沿いの園路:千鳥ヶ淵沿いに眺望を楽しめるバリアフリーの園路を確保します。
- ○公園と歩道:公園敷地は、都市計画道路の拡幅ラインに配慮します。また、歩道橋により狭くなっている歩道部は、公園側で通路を確保します。公園と歩道は、一体的な空間となるように配慮します。
- ○交流拠点施設:眺望広場に隣接(現在の公衆トイレ付近)して、交流拠点機能やトイレ機能 の配置を検討します。

■段階的な整備の考え方

- ○東京 2020 大会*までの整備
 - •計画地の円滑な歩行環境、水辺の眺望、休息や交流機能を有する「空間整備」を先行的に行います。
 - トイレについては、必要に応じて設置等を検討します。

○東京 2020 大会*以降の整備

・交流や情報発信、眺望・憩い等の多様な機能を有する施設等の必要性については、オリン ピック後のニーズも踏まえて改めて検討していきます。

